

# ガッチャン! BLOG

世界の仲間とガッチャン!とつながれば、あなたの新しい可能性が見えてくる!



## カテゴリ

- [NHK@キャンパス収録日記](#)
- [出演者メッセージ](#)
- [大学生の声](#)

## 最近のコメント

※コメントはありません

## トラックバック

※トラックバックはありません



RSS

[<< 前の記事](#) | [トップページ](#) | [次の記事 >>](#)

2011年02月28日 (月)

### 第36回(2月25日放送)大阪大学サイバーメディアセンター — 清川清准教授にインタビュー

#### 『Enjoy the Challenge!』

こんにちは!  
『ガッチャン!』スタッフSEです。

今回は、大阪大学サイバーメディアセンターの  
清川清先生へのインタビューをお送りします!



大阪大学 サイバーメディアセンター清川清 准教授

**番組スタッフSE**(以下、S): 今日は遠いところからお越しくださいませ、  
どうもありがとうございました!

**清川先生**(以下、清川): いえいえ。とても楽しかったです。

**S**: 清川先生は、今回VTRやテレビ電話に登場してくださった  
クリスチャン・サンダー先生ととても親しい間柄だそうですね。  
実は、「スタジオにはぜひ清川先生を!」とサンダー先生ご自身か  
紹介してくださったんですよ! サンダー先生、とても気さくな方ですね。

**清川**: そうですね。  
学術会議で会うと、必ず日本のギャグであいさつしてくるんですよ。  
テレビ電話では彼から「なんでやねん!」って言われましたけど、  
こっちが「なんでやねん!」って感じですね(笑)

**S**: 学術会議で、ですか!? なんだかおもしろい光景ですね。

**清川**: でもね、その辺は「違う文化に溶け込もう」という気持ちの表れでもあるん  
です。  
日本に初めて来たときに、  
「どうやったら打ち解けられるかなあ」と考えたんでしょうね。  
コミュニケーション能力もとても高いんです。  
研究者として、とても大事だと思います。

**S**: そうですね、自分のところにもっているよりは、  
いろんな人とコミュニケーションをとれた方がいいですね。

**清川**: 研究には、アイデアを出す段階、それを具現化する段階、人に伝える段階と、  
もしかしたらここから先は研究者の仕事ではないかもしれないですけど、

## 新着記事

- [スタジオ見学にきた日本女子大学生のみなさん\(2月25日放送\)](#)
- [第36回\(2月25日放送\)大阪大学サイバーメディアセンター 清川清准教授にインタビュー](#)
- [第36回\(2月25日放送\)@キャンパス収録日記](#)
- [スタジオ見学にきた東京経済大学生のみなさん\(2月18日放送\)](#)
- [第35回\(2月18日放送\)東京工業大学 理工学研究科 広瀬茂男教授にインタビュー](#)

## 検索

検索

## カレンダー

<< 2011年02月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

## バックナンバー

- [2011年2月](#)
- [2011年1月](#)
- [2010年12月](#)
- [2010年11月](#)
- [2010年10月](#)
- [2010年9月](#)
- [2010年8月](#)
- [2010年7月](#)

それを人に使ってもらおう段階があると思うんです。  
考えて、作って、人に伝える。  
それぞれ、やっぱり大事ですね。  
クリスはその3つの能力、どれも高いと思います。

**S:** 清川先生は、ARの技術そのものというよりは  
ARを活用するためのディスプレイの開発が専門なのですね？

**清川:** そうですね。  
今ある技術っていうのは、「トンネルビジョン」とも言われるんですけども、  
あくまで、のぞき穴から見た限られた範囲しか違ってようには見えません。  
人間って、前だけではなくて横も見えますよね。  
周りの世界がすべて変わったように感じられるようなものを作りたくて、  
挑戦しているんです。  
新しい技術を使って、ARの普及を助けるようなことがしたいですね。

**S:** 研究をしていて難しいのはどういうところですか？

**清川:** 本当に技術的に最も大変なのは、実は  
「周りで何が起きているか」  
「使用している人が何をしてほしいと思っているか」を察知してくれる、  
「気のきくシステム」を作ることなんです。  
お腹が空いていないのに、常にレストランの場所が表示されていたら  
「今その情報はいらないんだけど…」って思いますよね。  
もし今探しているCDがあったら、  
レストランよりはCDショップを表示してくれた方がうれしいですね。  
そういうのが、何も言わなくても、キーボードで入力しなくてもわかる、  
「今あなたはCDを探しているでしょう」と気持ちを読み取って、  
自動的にCDショップを表示してくれる。  
疲れていたら、「〇メートル先に喫茶店がありますよ」と表示してくれる。  
本当は、人を助けるための情報を表示しようと思ったら、  
「何をせよばいばんいいのかわからない」ということがわからないと意味がないんです。  
本当に見たいものが別にあるときに、その上に関係ない映像を重ねてしまったら、  
邪魔にしかならないですね。  
だから、人間の欲求や状態を認識する技術が、表裏一体で必要なんです。

**S:** ああ、確かにそうですね！  
エンターテインメントとして「遊ぶ」というはっきりした目的があって使う場合は  
単純にディスプレイを着けて楽しめばいいかもしれませんが、  
日常に溶け込ませようと思ったら、  
「気持ちを読み取る技術」が不可欠なことですね。

**清川:** そうなんです。  
携帯は使うときだけ出してあとはしまっておけますが、  
メガネとして装着して使う場合、  
着けた状態で街に出て一日過ごすこともあり得るわけです。  
自分で使用者の気持ちや状況を読み取って  
勝手に機能を切り替えてくれるような賢い機械じゃないと、  
かえって使いづらくなってしまいかもしれないわけです。

**S:** 最後に、学生さんへのメッセージをお願いします。

**清川:** チャレンジ精神を持って、そしてその挑戦を楽しんでほしいですね。  
困難があっても、そこから逃げるのではなくて、逆にそれを楽しむ。  
そうすれば、思ってもみなかったような世界が開けてくると思います。

**S:** どうもありがとうございました！



#### **サンダー先生の日本語での自己紹介に一同拍手！**

番組中ではご紹介できませんでしたが、実は今回、わざわざ大阪から  
清川先生も自身で開発されたディスプレイを持ってきて、  
学生さんに体験させてくださっていて、

→ [2010年6月](#)

→ [2010年5月](#)

→ [2010年4月](#)

→ [2010年3月](#)

→ [2010年2月](#)

→ [2010年1月](#)

→ [2009年12月](#)

→ [2009年11月](#)

「すごい！」「楽しい！」ととても評判でした。  
この技術が、いつか本当にただ楽しむためだけのものではなくて  
日常生活に溶け込む日がきてほしいです。

次回の『ガッチャン！BLOG』もお楽しみに！

投稿者:番組制作スタッフ | 投稿時間:15:49

## トラックバック

### ■この記事のトラックバックURL

<http://cgi2.nhk.or.jp/cgiblog/tb.cgi/31606>

### ■この記事へのトラックバック一覧

※トラックバックはありません

[ページの一番上へ▲](#)



Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved. 無断転載・転用を禁じます。  
ご意見・お問い合わせ | [NHKにおける個人情報保護について](#) | [NHK著作権保護](#) | [NHKオンライン利用上の注意](#)